

# トレッドミル運動負荷心電図検査 説明・同意書

## 1, 検査の目的および必要性について

この検査は、安静にしているときではなく、日常労作あるいは運動時に心臓の機能が維持されているか、狭心症発作を起こさないかどうかを判断するために行います。この検査の目的は、狭心症の診断と、心臓がどこまで運動に耐えられるかの判定、または運動による不整脈の変化の判定です。カテーテル検査や薬物による治療効果の判定にもなります。あなたの場合、これまでの所見から、本検査を実施したほうがよいと考えられます。

## 2, 方法

ベルト・コンベアーの様な通路の上を機械のペースにあわせて歩いていただきます。2-3分おきに、徐々に登り坂になり、歩く速度も速くなっていきます。検査中は循環器専門の医師が見守り、常に心電図を記録し、血圧も測定します。また、あなたがどのくらいつらくなったかもお聞きします。ある一定の心拍数まで達したとき、あなたがこれ以上歩けなくなったとき、狭心症発作などの症状が出現したとき、心電図異常が出現したときなどで終了します。

## 3, 危険性・合併症・副作用

運動負荷心電図検査に危険性があることは否定できません。具体的には、血圧低下/上昇・めまい・脈の乱れ・失神・胸部不快感などがあります。診断のために心臓に負荷をかけることで、誘発された狭心痛が長引き、さらに心筋梗塞や不整脈が生じる可能性もあります。その際には緊急入院（日本心電図学会によるデータでは、緊急入院：43,000 試験に1回、死亡：264,000 試験に1回）を含む緊急処置が必要になることがあります。この場合の治療費は原則として通常の診療と同様に患者様のご負担となります。

また、ご自身の足が追いつかなくなったときには注意しながら、緊急停止いたしますが、転倒、それによる骨折などの合併症が生じる場合もあります。

検査中は、循環器専門医が見守り、運動中の心電図や血圧反応を監視し、検査室には救急器具・薬品が用意されており、不測の事態に対する緊急処置ができる体制も整えています。

---

以上、私は、患者 \_\_\_\_\_ 様に上記医療について説明いたしました。

平成 年 月 日 循環器内科・心臓外科・小児循環器科 医師 \_\_\_\_\_ 印

(医師よりの指示にご記入ください。)

私は、上記医療の説明を受け、内容を理解いたしましたので、本検査の実施に同意します。

(同意された場合でもいつでも撤回することができます。)

平成 年 月 日 患者氏名 \_\_\_\_\_ (自署) 印

## トレッドミル運動負荷心電図検査説明書

検査の日時 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分

当日は、24 番生理機能検査室内の心電図検査室においでください。当日、体調がすぐれないようでしたら、中止もしくは延期してください。その場合、心電図検査室までご連絡ください。

### 1, 準備

- ・ 脱衣が容易で、歩きやすい服装でおいでください。素足で歩いていただきます。
- ・ タオルをご用意してありますが、ご自分で持ってきていただいても結構です。
- ・ 食事は軽めにして、検査の2時間前までには、すませてください。

医師よりの指示

- ・ 内服薬  全て服用する。  中止する。中止する薬剤 \_\_\_\_\_
- ・ 検査の目的 \_\_\_\_\_

### 2, 方法

ベルト・コンベアーの様な通路の上を機械のペースにあわせて歩いていただきます。2-3分おきに、徐々に登り坂になったり、速度も速くなったりします。検査中は循環器専門の医師が見守り、常に心電図を記録し、血圧も間欠的に測定し、ご自身がどのくらいつらくなったかもお聞きします。ある一定の心拍数まで達したとき、ご自身の足などがつらくなったとき、狭心症発作などの症状が出現したとき、あるいは医師の判断で心電図異常が出現したときなどで終了にします。検査前後にも心電図、血圧を記録します。検査時間は安静時間を含めて、約30分ほどです。